



特定非営利活動法人

青果物 健康推進協会

協会概要

日本は以前、世界一の長寿国と言われてきましたが、これはいわゆる日本型食生活の良さに起因しているものと思われます。日本型食生活は日本の気候風土に適した米を中心に農産物、畜産物、水産物等多様な副食から構成され、栄養バランスが優れた食生活と考えられています。

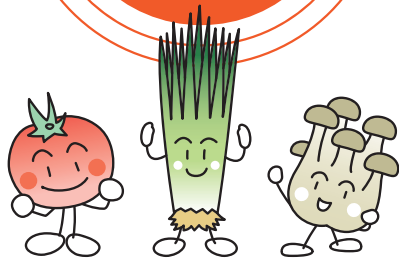
しかしながら、我が国では、近年、社会経済・構造がめまぐるしく変化する中で、私たちの食生活も大きく変化し、栄養バランスの崩れ、脂質の過剰摂取や野菜の摂取不足等により各種の問題が指摘されるようになり、長寿国ランクは2位に落ちました。また、これらに起因して、中高年男性を中心とした肥満や心臓病、脳卒中、糖尿病、がん等の生活習慣病が増加傾向にあり、若年化しているのが現状です。そして、現在、日本人の死因の6割がこのような生活習慣病に起因するものだとされています。

こうした問題を解決するため、平成12年に当時の文部省、厚生省、農林水産省によって「食生活指針」が作成され、これを普及すべき閣議決定され実施されてきたところですが、食の安全確保の問題並びに食料の安全保障の問題も含め、平成17年6月に「食育基本法」が制定され、「食生活指針」をより具体的、実践的に利用できるようにするため、同年7月「食事バランスガイド」が作成され、副菜としての野菜・果物摂取の必要性が織り込まれ、普及・啓発をしているところであります。また、同法に基づき、食育の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成18年3月に「食育推進基本計画」が策定されました。青果業界ではその4年前の平成14年7月、国内の農業団体(JAグループ)、卸売市場等の流通業者、スーパー・量販店などの小売業者、食品メーカー、外食・中食業者等が集結し、野菜・果物をもっと食べてもらい、日本人の健康維持に貢献すべく青果物健康推進協会(設立時は委員会)が設立されました。

設立から一貫して、全国各地の産地会員等と一緒に様々な場所で食育等を通じて、野菜・果物の消費拡大活動を開発、展開しています。活動の中心は、協会が独自に養成した専任講師であるVFT(ベジフルティーチャー)です。例えば、小学校での出前授業として子供の野菜嫌いを克服し、正しい食生活に導く食環境変容を目指した「野菜・果物博士になろう」の食育活動や、大学の栄養学科で各産地の野菜・果物の授業実施等のほか、会員スーパーで実施する販促研修等にカリキュラム・テキストの提供並びに講師(VFT)を派遣しています。この他、国産果実の消費拡大を積極的に推進する「フルーツdeリフレッシュ(くだもの食べるとクダもの)」の展開や日本初となる青果物の消費拡大に行動経済学の「ナッジ」を活用する研究も行っています。



目的と 特色



1 「健康増進」を起点に「消費量拡大」へ

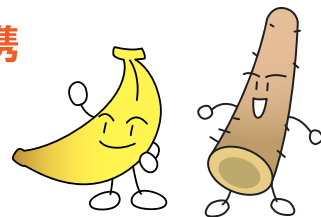
青果物健康推進協会は、『青果物およびその加工物の摂取を通じ、生活者の健康維持・増進に寄与すること』また『青果物の情報発信を通じ、生活者の豊かな食生活の実現に寄与すること』を目的とした初の全国組織です。

2 「業界の枠組み」や「企業間競争」を超えて集結

青果物健康推進協会は、生産、卸、市場、流通という「業界の枠組み」や「企業間競争」を超えた日本で初めての非営利団体(NPO法人)です。

3 国・教育機関・医療機関と連携

国内外の医療機関・大学・研究機関、また農林水産省などの官庁との連携により、生活者に実りある活動を展開いたします。



ベジフルティーチャー

VFT 各チームの 活動内容

企業の健康経営に 参画チーム

チームの半数が管理栄養士の資格を有し、健康経営に取り組む企業と連携して青果物の摂取拡大に貢献します。産地会員とも連携し、企業の社員食堂でのメニュー化や社内販売なども行います。

ナッジ研究チーム

シカゴ大学の行動経済学者リチャード・セイラー博士がノーベル経済学賞を受賞したことで世界的に注目される「ヒジで軽く突くように強制や金銭的動機付けに頼らず、人々の行動を変える戦略」=「ナッジ理論」を青果物の消費拡大に生かすべく研究するチームです。女子栄養大学の林芙美准教授(理事)を座長に産学連携で進めています。

スーパー研修チーム

青果物の消費拡大には店頭での販売促進効率の向上がポイントです。会員各スーパーでの販売促進効率を高めるためのカリキュラム(メソッド)を開発し、スタッフ研修を実施しています。独自に開発したチャレンジシートの活用で商品知識・接客技術・売り場提案力を高め、販売促進に寄与します。

大学の栄養学科等での 授業実施チーム

近い将来、集団給食などでメニュー考案・仕入れを担当する(管理)栄養士を目指す大学と連携し、青果物の授業を実施しています。会員産地から青果物を提供してもらい、講義や実習授業を行います。また、授業後には学生らに新規メニュー提案も行ってもらいます。

優彩育塾(やさいじゅく) チーム

各大学との産学連携並びに農林水産省の補助事業で開発したカリキュラムにより各会員産地と連携し小学校、幼稚園・保育園等で食育出前授業等を実施しています。野菜嫌いの子供を減らすなど、児童の食環境の変容に貢献しています。

理事名簿(令和2年度)

	所属団体名	役職	氏名
理事長	公益財団法人 食品等流通合理化促進機構	会長	馬場 久萬男
理事	株式会社オフィスベジフル	代表取締役	近藤 卓志
理事	株式会社グリーンメッセージ	生産部 原料担当 担当次長	藤本 幸佳
理事	株式会社サカタのタネ	野菜統括部 部長	大塚 達
理事	一般社団法人 全国中央市場青果卸売協会	参与	秋山 良文
理事	女子栄養大学 栄養学部	准教授	林 芙美
理事	全国農業協同組合連合会	園芸部 卸売市場課長	茂木 俊光
理事	東果大阪株式会社	ITマーケティングG プロジェクトリーダー	新開 茂樹
理事	東京青果株式会社	野菜第3事業部 部長	柴本 勲
理事	株式会社マルエツ	青果部 部長	大室 守生
理事	株式会社アールアンドシー・カンパニー	モデル・VFT	長谷川 理恵
監事	株式会社NARUMI	代表取締役	木元 亜矢子
顧問	十文字学園女子大学 国際栄養食文化健康研究所	研究員	金高 有里
顧問	日本赤十字社医療センター	腎臓内科医師	柳 麻衣

